

ウムチョ ムウイーザ通信 No.8

ルワンダ語で「良い文化学園」の意味を表します。

スタディーツアー報告



2004年 7月 26日から8月 13日まで、本会初のスタディーツアーを催行しました。

ルイズさん、ルイズさんの3女サクラ、来年井戸掘りでお世話になる「風の学校」の中屋さん他、総勢11名のツアーでした。

7月26日、成田空港に集合し、期待と不安が入り混じる中、15:45に成田を飛び立ちました。途中バンコク、ナイロビと乗り継いで、最終目的地のキガリに着いたのは、27日の現地時間10:20、日本時間で言えば27日の夕方5時過ぎのことでした。



空港では、ルイズさんのお母さん、校長先生ご夫妻、親戚の皆さん、ウムチョムウイーザの先生や子ども達が出迎えてくれました。

私たちは、ルイズさんが戦争前にご主人と力をあわせて建てたという、立派なおうちに泊めていただきました。こんな立派な家を残して、日本に来て、狭い家に住み、最低限の生活をしながら頑張って祖国の支援をしていたのかと思うと、ルイズさんの偉大さに改めて感動しました。

本来なら、雨季に入っているはずのルワンダの首都キガリですが、今年は、乾季が長引き、私たちの帰国する前日に始めて降るまで、雨はまったく降りませんでした。

そんなわけで、深刻な水不足に見舞われていたキガリ市は、水力発電もままならず、16日間の滞在期間中、3分の2は停電で、3分の1は断水でした。

そんな状況の中でも、ルイズさんの親戚一同が協力して、私たちを受け入れてくれました。たらいの水1杯で、シャンプーから体洗いまで、できるようにもなりました。電気も水もふんだんに使える日本の生活のありがたさが、身にしみました。

ウムチョムウイーザ学園の子供たちは、純真で、愛らしく、一生懸命勉強に打ち込んでいました。その姿を目の当たりにして、私たちの活動

が、こんなに大きく花開いていたのかと深く感動しました。私どもの会に皆さんがお寄せくださった真心は、きちんとルワンダに届いていました。

しかし、一歩町へ出ると、私たち外国人を見つけると、「ムズング（裕福な人）だ！」とストリートチルドレンが群がるように集まってきます。その姿を見ると、「まだまだ初めの一歩を記しただけで、これから、もっともっといろんな支援をしていかなくては」と、身の引き締まる思いもしました。

昨年のチャリティーコンサート「ピーストレイン」の収益金で買ったバスも、無事に学校へ着きました。



詳しい報告は次ページよりご覧ください。尚、ルワンダツアーの写真は会のホームページの「学校建設の様子」にアップしています。ご覧ください。

ルワンダ日記

その1

7/27 (火)

7月27日、10時45分、うす曇りの中、我々の飛行機は、キガリ空港に到着しました。

風があり、長旅で座りづくめでかたくなった肩や、汗ばんだ背中に、やさしく接してくれました。私のキガリ第一印象は、「さわやかな風」でした。

階段をおりたら、たくさんの方がこちらをむいているので、「何か？」と思ったら、私達をむかえにきてくれた方々でした。市長さん、ルイズさんのお母さん、お姉さん達、そのご主人、息子（と思われる若くてスマートな青年）、そして、ウムチョムウイーザ学園の先生と生徒達。

子ども達は、小さな手にルワンダ国旗と日の丸を持って、いっしょうけんめい振っていました。その姿のかわいいこと！！

「ムラホ！（こんにちは）、アリブ！（ようこそ）」とひとりひとりと挨拶し、抱き合い、手を握りあって、「ルワンダにきた」と実感したひと時でした。

「アフリカは熱い」というのは、私の思い込みでした。空は広く、なだらかな丘がながく続き、赤い土の大地はおだやかでした。

ルイズ家に着いて、バナナと豆、とうもろこしの料理でチャイをいただきました。完熟バナナのおいしいこと。チャイ（紅茶）は、ミルクとさとうをたっぷり入れて飲むのが、ルワンダ式だそうです。

夕方は、市長さん招待のレストランでの食事会でした。皆、ステキなドレスを着て、トラックに乗って出かけました。私は、ゆかたを着て、下駄をはき、しずしずとあるきました。

市長さんは、元教師ということで教育に感心を持っておられ、ルイズさんの学校にも、大変理解を示してくれました。さい先の良いスタートを感じた、第一日目でした。



7/28 (水)

キガリの朝は、「さわやかな風」で始まります。各家庭で朝食の用意をしているのでしょう。おいしいにおいがして、ねむってなんていられません。

パンとバナナとアボガドの贅沢な朝食の後、トラックに分乗して学校に行きました。

初めて見る、ルイズさんの学校、ウムチョムウイーザ学園！立派な校舎に子どもたちの元気な声。なみだが出てしまいました。

小学校3組、幼稚園3組があって、各クラスで挨拶をしたら、「おはようございます」と日本語で返されて、びっくり。幼稚園の子どもたちが、フランス語の歌をうたってくれて、又、びっくり。

3年生のクラスで、おり紙と日本語の授業をしました。小箱を折って、「よくできました！」とミルキーを入れてあげると、大喜びでした。

遠藤先生の日本語の授業は、あざやかでした。「赤、青、黄色」などを日本語で教えると、きれいな発音で、「あか、あお、きいろ」と言うことができました。

1、2、3、4...と10まで数えることは、すぐにできてしまいました。「ウノ（UNO）」で数字を覚えながら、ゲームをしました。最後は興奮して、室中がおまつりのようでした。



7/29 (木)

「さわやかな風」で一日が始まります。

きょう我々一行は、トラックに分乗して、ウムチョムウイーザ学園に行きました。

2年生のクラスに行って、日本語とおり紙の授業をしました。

おり紙は、紙ヒコーキをつかって、集会室でとばしっこをしました。上手にできた人も、あまり立派に折れなかった人も、夢中でヒコーキとばしをしました。

空をくるくる回って飛ぶヒコーキ、まっすぐ長く飛ぶヒコーキ、すぐおちてしまうヒコーキ。とばして、ひろって、競争してとばして、汗をかい、大さわぎでした。こんなに楽しんでもらって、私達も幸せな気分になってしまいました。

午後、ストリートチルドレンをあずかって手工芸を教えている教習所を訪問しました。自分の生活のための糧になると、真面目に紙を切り、バナナの葉を細工し、掃除をする子どもたち。

さきほどのヒコーキとばしの楽しかった事が、頭の中をよこぎりました。



文／佐藤 まき子

さん

ルワンダ日記

その2

7/30 (金)

あしたは、税関に行かなければならないので、授業の通訳はできません。」とレイズさんに言われ、ええっ!! そんなあ?。どうするの??? ×#□○?…」

でもそこは、《年の功》を売りこしている心臓の強いオバさん。

早朝3時に目を覚ますと、ヘッドランプの光を頼りこ、授業に必要なフランス語を探し出すことにした。2日間の授業を思い出しながら、日が昇るまでに、やっと5、6行の文を作り上げ、レイズさんに見てもらおう

それは、こう言った方がいいですよ。」

訂正してもらった文をくり返し唱え、頭に叩き込む。

子ども達を前に、

オンヴァ コマンス… (さあ始めましょう…)

とフランス語らしきものを発したところ、すばらしい反応が返ってきた。練習した日本語は、簡単なものだったが、あの真剣な表情に感激したオバさんの心は揺れた。



7/31 (土)

学校が休みなので、私達もきょうは自由。と行っても、自分達だけではどこにも行けないから、トラックに乗って大異動。皆、荷台で砂ぼこりを浴びているが、私はいつも助手席に。皆さんいわく、『つまりそこは、シルバースーパード。』

午前中ということもあってか、きょうの市場は落ち着いた雰囲気だ。が、初めて来た日は、夕方のごった返している時間だった上に、物乞いの人達に囲まれ、思わず後ずさり。

市場でまず目に入るのは、所狭しと置かれている、青いバナナ。デザート用とは別のこの青くて固いバナナは、フライにしたり、蒸してスープをかけたりして、毎日、食卓にのぼる。青菜も根菜類もたくさんあるし、豊富な豆類も目を引く。そして、なんと言っても嬉しいのは、アボガド・パパイヤ・マンゴーetcの完熟果物が山積みされていることだ。これらの新鮮な食材で作られた料理が、三食とも目の前に並べてもらえるなんて、私には、極楽、極楽。



8/1 (日)

5時起床で、ナショナル・パークへ。

市長さんのビッグプレゼントは、「運が良ければ」ではなく、「絶対見られる」という最長コースのサファリ旅行。キリン、シマウマ、インパラ、大きな猿、カバの湖水浴、等々。そして、極め付けは、獲物を仕留め食っているイーグルの群れ。いろいろなことがあったが、テレビの画面と同じ、大パノラマの中に身を置いた行程、13時間のこの一日は、私の心を動かすものがあった。

「初めは信じられなかったが、レイズさんが、“学校を作る”という夢を実現させたことによって、夢は叶えられるものだという確信を持った。」という市長さんのことばには、《ルワンダの教育を考える会》に大きな夢を託しているという思いが込められているのを感じた。《ウムチョムウイザ学園》を通して、ルワンダと日本の絆が一層強くなることを祈りながら、この夜は、まき子さんと2人、《シェランド・ホテル》へ。「ホテルの宿泊も体験してみたい」と思っていた私達は、朝食付2人で50ドルに大満足。



文/
遠藤 信子

さん

ルワンダ日記

その3

8/2 (月)

ルワンダに到着してから、もう1週間が経っていた。私は、きらきらと輝く瞳をしたウムチョ・ムウイーザ学園の子どもたちに会うのが、毎日の楽しみになっていたが、この日は、特別だった。子どもたちが大歓迎会を開いてくれることになっていたからだ。

からからに乾いたデコボコ道を、砂埃を上げて走るトラック。その荷台に乗って（これがジェットコースター気分、結構、楽しい）学校の門をくぐった瞬間、子どもたちの歌声に包まれた。あなたはジャーナリストなんだから、しっかり撮って」というチャールズ校長の声に背を押され、私は彼らをカメラに収め始めた。

小さな手に握られたルワンダと日本の国旗。はじける笑顔と胸に響く歌声。日本から送られた、カスタネットやピアノ、鈴を演奏する真剣な表情。そして圧巻だったのは、ルワンダの情熱的な民族舞踊だ。あ？、アフリカに来たんだ」と改めて実感した。

優しい笑顔の奥に息づく彼らの情熱を感じ、熱いものがこみ上げてきた。この溢れ出すエネルギーは、何なのか。ビデオカメラのファインダーが、何度もぼやけて見えた。きっと、私たち日本人が忘れてしまった大切な何かを見つけた気がしたからだ。

う



文／

伊藤 彩

さん

8/3 (火)

今日から、音楽・図工の授業開始です。ドキドキしながら、迎えのトラックを待つ…待つ…。しかし、なかなか来ない。（9時から始められるかな？）と不安になりつつも、昨年の経験から（これがアフリカンタイム）と自分に言い聞かせ、待つ…。

お迎えがやっと来て、学校到着は9時30分。授業開始は10時ちょっと前。

最初は、1年生の音楽です。辻さんが、日本からシャボン玉液を持ってきてくれたので、それを吹いてみせると、「ワァー」と歓声が上がりました。

その後、『シャボン玉』の歌を教えたら、すぐに覚えてしまいました。休み時間にも口ずさんでおり、気に入ってくれたようです。シャボン玉遊びも大好評でした。

次は、絵の具を使っての3年生の授業です。赤・青・緑・黄・ピンク・水色などの絵の具で画用紙にグルグルを描きました。

場所や用具の都合上、3回に分けて行うことになりましたが、待っている子ども達は、早くやりたくてうずうずしている様子でした。さくらちゃんも、3年生の図工の授業でやっているの、（こんな方法もあるよ）と絵筆をふって、絵の具のしぶきを紙の上に飛ばせると、見ていた子ども達もまねをしてとても楽しそうに行っていました。見ていた先生も、私にも紙をください。」と、とうとう自分でもグルグル描き出してしまいました。



文／

野地 順子

さん

8/4 (水)

今日の1時間目は、2年生の図工の授業です。紙皿と折り紙を使って工作を行いました。

紙皿の真ん中に、クレヨンを使って、自分の好きな物を描きました。終わった順に、紙皿の周りに丸や三角、四角にあらかじめ切っておいた、色とりどりの折り紙を、のりを使ってはっていききました。

折り紙が珍しいので、たくさんはりたい子もいて、

周りだけ」と指示したのに、真ん中の方までではってしまい、担任の先生に注意されてしまった子もいました。でも、作品ができあがった頃、子ども達にカメラを向けると、うれしそうに自分の作品を掲げて見せてくれました。

次は、日本から持参したビデオの上映会です。今回、都合で行くことができなかった、大寺先生のメッセージと歌が入ったビデオを、子ども達は、真剣に見て

いました。もう一つのビデオは、福島県の紹介ビデオ（TUFから）です。ところが映像は浜通り…。海のないルワンダの子ども達には、分からないことが多かったかな？

後日談ですが、「ビデオの後ろの方に、中通りも、会津地方もあったんですよ」とのこと。

早く言ってくれ?！」



ルワンダ日記

その4

8/5 (木)

野地先生の授業の3日目。

最初は、2年生の音楽の授業。教室で『シャボン玉』の歌を習ってから、多目的室に移動してシャボン玉遊び。シャボン玉液のはいった小瓶を2人に1本、ストローはひとり1本ずつ…のはずが、数が足りない。全然足りない。なぜ？ふと部屋を見回すと、なんだか生徒の数が多くない…？2年生ってこんなに多かったっけ？あれ、この人は、1年生の担任の先生では？そう、いつの間にか1年生も来ていたのです。先生曰く、「昨日習った『シャボン玉』を一緒に歌うために連れて来た」とか。結局、シャボン玉は2年生だけにやってもらい、最後に、1年生も一緒に『シャボン玉』を歌って、なんとか終了。それにしても、一昨日習ったばかりの歌詞を、意味も分からないのに、すっかり暗唱している記憶力に感服！

次は、1年生の図工の授業。紙皿の縁にクレヨンで色を塗り、真ん中にポスターカラーで手形を押し、リボンをつけてダリオンをつくる。なぜだか、親指以外の4本指をくっつけて手形を押す子供が多い。ポスターカラーが流れないように、紙皿を傾けないようにして、よく乾くまで待っていてね。」なんて言っても、待てないよね、やっぱり。すぐに首からさげて、手形だか何だか分からなくなってしまった者多数。でも、まあ、みんな満足そうだから、よしとしよう…。

8/6 (金)

野地先生の授業の4日目。

3年生の2回目の図工の授業。今日は、一気に2枚の絵を描いてしまう予定。

そのまえに、野地先生が持ってきた日本の小学生が描いた絵とカードを紹介。カードは飛び出すカードで、ルワンダ語のメッセージ付き。日本の子供も頑張りました。

さて、1枚目の絵は、人間の描き方の練習。細長い紙に、野地先生の指導で人体を描いていく。頭、胴体、「頭より胴の方が細いマッチ棒みたいな人はいないよ？」と野地先生。腕、脚、顔…制服の青いチェックのシャツを描くところで、なぜか子供たちは大喜び。

2枚目は、今日のメインテーマ、シャボン玉の絵を描く。まずは、みんなでシャボン玉遊び。多目的室に移動せず、教室でほんのちょっとだけ。子供たちは、これまで下級生がシャボン玉遊びをするのを見ていたので、楽しみにしていたに違いないけれど、時間がないので、ごめんね。それから、野地先生に教わったばかりのテクニックを駆使して、思い思いにシャボン玉の絵を描く。そのテクニックというのは…クレヨンで円を描いたら、その中に好きな色を何色か塗る。そこをティッシュペーパーでこすって、色を混ぜ合わせると同時に、ぼやかす。そうすると、シャボン玉の、あの、いろんな色が混ざり合った感じがでるというもの。シャボン玉が描けたら、その中や周りに自分を描く（最初に人間の描き方を練習したのはこのため）。友達や好きな物も描く。こうして、なかなか幻想的な絵がみごと完成。

最後に生徒ひとりひとりが、1回目の授業で描いた絵と今日描いた2枚の中から、日本の小学生にプレゼントする絵を選んでくれました。日本の小学生は、この絵を見て、どんな感想を持つのかな？



文/
村田 富美恵

さん



8/7 (土)

今日は、学校でお別れ会。

子供たちは、盛りだくさんのプログラムを用意して、日頃の勉強の成果を見せてくれました。子供達の発表を見る親御さん達の笑顔が、本当にうれしそうで、とても印象的でした。先生方の誠実さ、子供達の純真さ、親御さん達の熱心さに支えられて、ウムチョムウイーザは、これからも着実に発展していくのだなぁと確信しました。

それにしても、まだバスが出てこないなんて！
もう滞在期間も残り少ないのに…



文/
飯高 千恵子

さん

ルワンダ日記

8/8 (日)

今日のお昼は、チャールズさんのお家で作ってもらいました。ベンジャミンと一緒に食べにきてくれましたの食事、最高でした！

ご飯を食べた後は、exposition へ。ルヤやインドなど、たくさんの国の民芸品麗で、とっても安い！！かわいいアクセリー好きの私には、たまらない一日でシルを飲みに行きました。楽しい買い物たことでしょう。

夕御飯には、exposition で買ったTOFUに挑戦！ん？とっても微妙な味…ぜひルワンダにて、ご賞味を…



た。彼のかわいい笑顔を見なが

ワンダの民芸品はもちろん、ケニがありました。どれも、とっても綺麗サリがたくさんあって、アクセサた。exposition の帰りに、皆でビの後のビール、きっと美味し

FUに挑戦！ん？とっても微妙な

8/9 (月)

今日は朝から、昨日買ってきたTOFUを使って、チャンプル作り。トマト・ピーマン・玉葱と具たくさんのチャンプルです。とてもおいしくできたので、チャールズさん一家にもおすそわけ。

朝ご飯を食べた後は、町へ買い物に。何度も町に出かけていたので、皆、何がどこにあるか覚えてしまいました。

お昼をルイズさんの名付け親という方のお家で頂いた後、またまた exposition へ。今回は、大事な仕入れです。ネックレスとバナナリーのランチョンマットを大量に買い込みました。皆で、まけて？ お願い？」の連発。日本ではできないことなので、とても楽しかったです。



文／
辻 恵美

さん

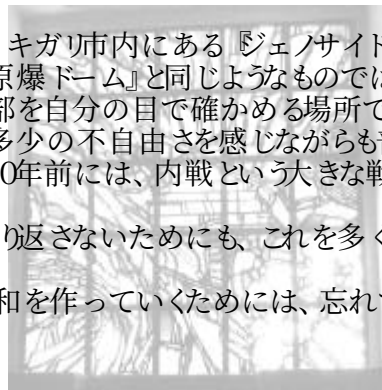
8/10 (火)

今日は、市長さんの案内で、キガリ市内にある『ジェノサイドメモリアル』に行きました。ここは日本でいう広島『原爆ドーム』と同じようなものではないかと思いました。つまり、戦争という悲惨さの一部を自分の目で確かめる場所でした。

私は、ルワンダに来てから、多少の不自由さを感じながらも普通の生活を見てきました。けれども、この国では、10年前には、内戦という大きな戦いがあり、多くの人間が殺されたのです。

このような悲しい事を再び繰り返さないためにも、これを多くの人に見てもらう事が必要です。

今後、ルワンダという国の平和を作っていくためには、忘れてはいけない、大切な事だと感じました。



8/11 (水)

今日は、ルワンダを出発する日です。でも、今回のルワンダ訪問の最大の目的の1つは、学校にバスを届けるという事でした。しかし、肝心のバスが届いていないのです。

ようやく、今日、学校へバスを届ける事ができて、ほっとしました。

ルイズさん、チャールズさん、飯高さん、ご苦労様でした。

その後、みんなでバスを学校に届けると、子供達、先生達がみんな笑顔で 喜び、約束がはたせて、本当によかったなあと感じました。

今回、ルワンダの人達の温かいもてなしを受けて、感謝しています。おいしい食事や楽しい団らんなど、ルワンダにもう1つの家族ができたように感じました。

この16日間で体験した事、感じた事は、私のこれからの人生の中で、貴重なものになると思います。

本当にお世話になりました。ありがとうございました。 ☺



文／
石山 美紀子

さん

一昨年、9月27日仙台のコンサート会場で、こうせつさんから、「飯高さん、何か大きい事を企画してごらん。僕が、最後にクリーンヒットを打ちに行って上げるから。」と言っていたから2年、ようやく念願のスクールバスが、ルワンダのウムチョムウィザ学園に届きました。

4月に横浜を出たバスは、ケニアのモンバサを経て、7月上旬にはルワンダの税関に入っていたのですが…。日本では考えられないルワンダの税関の仕組みと、日通現地代理店社員のゆったりした働きぶり…。数々のアクシデントに見舞われながら、それでも市長さんはじめ、警察関係者、文部大臣、日通東京スタッフなど多くの方々にプッシュしていただいて、ルワンダ滞在最終日の8月13日10時30分に、ようやくバスは税関を出る事ができました。

学校に近づくバス…。子供達の歌声が聞こえてきます。校門を入ると大歓声に包まれました。学年ごとに試乗した子供達の輝く笑顔、喜びの歌声は、今までの苦労を帳消しにしてくれました。

運行方法やガソリン代など、課題もたくさんありますが、あの輝く笑顔の子供たちのために、これからも支援を続けていきたいと思っています。

今後とも、ご協力よろしくお願いいたします。



井戸建設のための 事前調査について

風の学校 中屋 伸一

「学校敷地内に井戸を」との要請を受け、調査に行ったので報告します。

学校は、なだらかな丘の中腹にあり、沢からは約30m標高が高くなっている。この学校には水道が敷かれているが、慢性的な水不足(キガリ全体の問題)のため、学校の敷地に住む先生たちの生活用水と教室の掃除に使うのが精一杯で、260人を超える生徒のため、新たな水源が必要であると思われる。

考えられる最も安価な水源は、雨水。学校の広い屋根に降る雨水を集めればかなり有効だ。タンクを高く設置すれば、そのままトイレの水にも使用でき、もちろんそのまま飲むことができる。だが、雨頼みなので不安定不十分。次に考えられるのは、沢に流れる小川の水。10年前、タンザニアで井戸掘りの活動をしていた時、カソリック教会の経営する宿に泊まっていたが、その時の水源は川(と言うより湿地帯の沼といったほうが近いかも)の水。カエルやゲンゴロウが元気に泳ぎまわっていた、透明度40cmの緑色に濁った臭い水だったが、湯冷ましを飲んでいたので問題はなかった。

ここキガリでも、まだ水道が敷かれていない頃には、沢を流れる水を飲んでいたのであろうし、今でも水道が敷かれていない地域では、湧き水や川の水をそのまま飲んでいることだろう。学校の下の沢にも湧き水があり飲料にしていると言う。泥水の一ヶ所から湧き水が出ていて石で囲いがしてある簡単なもの、『これじゃ泥水が混じるだろう』と思ったが飲んでみた。一応、下痢はしない程度の水質だが、残念ながら水量が乏しい。沢を流れる川の水も、ドラム缶などでフィルターを作りろ過すれば、清潔な飲料水にすることは容易だが、輸送の問題が出てくるし、第一、水道水を飲んでいる子供達が、いくら安全とはいえ、そんな水を飲んでくれるとは思えない。と言う訳で、やはり井戸を掘らなくてはならないという事になる。

学校の敷地内にある新しいトイレ工事の際、2.5mの深さまで穴を掘ったらしい。その場所では、石が全く出なかったという。井戸を掘削する場所が同じ地質なら、比較的簡単な道具で井戸を掘ることができる可能性がある。しかし、敷地の中には、地下0.8mから石混じりの赤土(ラテライト)、さらに地下1mからはそれに加えて1.5cm以上の石が点在する地層もある。どうやら地質は、単調ではないらしい。

さらに、掘削装置(道具または機械)を学校敷地外でも使用するものとして考えるならば、ある程度の石も砕いて掘り進められる装置を考える必要がある。

以前活動していたタンザニアの現場は、キガリから約100km、同じ大地溝帯にあり標高も同じ、透き通った大小の石英が地表に転がっていて、石英の岩盤に薄く土が被っているといった感じ。どこを掘っても、すぐ硬い巨石や岩盤に当たってしまい、全く掘れない。その地で当時同じNGOで活動していた別のチームが使っていた機械は、ロータリーハンマーと言う日本製の最新鋭マシン。それでも丘の斜面や上では水を出せず苦勞していた。一方、私が担当したのは、手掘りチーム。6ヶ月間、水が出そうな沢を中心に10ヶ所ほど試みて完成したのが2本。漠然とした印象として、キガリは、タンザニアほど地質的に厳しくはなさそうだが、はたして、沢から30m登った斜面で、水の出る井戸ができるか否か…。

ともあれ、来年の春頃には現地入りとなるだろう。「まあ、やるっきゃないね」というのが、現在の心境である。

◎ お知らせ ◎

チャリティーコンサート 地球のステージ」

山形の精神科医師、桑山氏による歌
と映像のコラボレーションステージ

2004年12月4日(土)

桜の聖母短期大学マリアンホール
13:00 会場 13:30 開演

全席自由 1,000円 (幼児 無料)

ルワンダの学校に ソーラー発電を!

三春町在住の武藤類子さんをチーフに
「ルワンダソーラー発電プロジェクト」を
立ち上げました。

環境にやさしいソーラー発電をルワンダへ
伝える事は、電気の供給のみにとどまらず、雇
用促進、教育環境の改善に大いに役立ってくれ
ると思います。

「ソーラーパネル」「バッテリー」「変圧制御装置」
などの機材購入、技術者の渡航費用などに約
100万円が必要です。

本会では、新たに郵便振替口座を設けました。
皆様のご協力をお願いいたします。

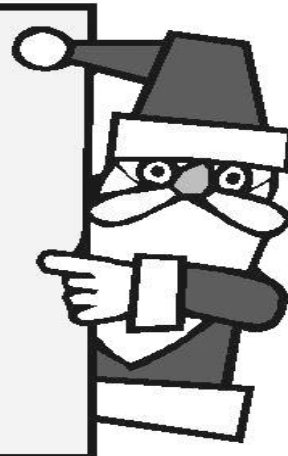
郵便振替口座：02200-2-77634
加入者名：ルワンダソーラー発電P

ルワンダフル☆クリスマス☆キャンペーン

今年も、12月1日より1月31日まで、「ル
ワンダフル☆クリスマス☆キャンペーン」を実
施します。

募金をお寄せいただくことはもちろん、募
金箱を設置してくださる方のご紹介もよろ
しくお願いいたします。

「会の振替口座番号」まで。尚、通信欄に、
「ルワンダフルクリスマスキャンペーン」
とお書きください。



◇ 会費は下記へお願いします ◇

正会員 5,000円

賛助会員 10,000円

郵便振替口座：02290-0-97126

加入者名：NPO法人 ルワンダの教育を考える会

編集後記

秋になったはずなのに、まだ
半袖でもいいかな?という日が
ありますね。

今回は、ルワンダ・スタディ
ー・ツァーの報告として、実に
5ページの超大作、「ルワンダ日
記」を掲載しました。どうぞ、
ごらんください!!。
もう少し、秋が深まったら、
紅葉狩りに行って、自然にふれ
たいですね。



ルワンダの教育を考える会

理事長 高橋 啓子
理事 長 カンベンガマリルイズ

〒960-8252 福島県福島市御山字中川原44-2
サンコーポ1号棟 102号室
TEL/FAX: 024-533-8289
ホームページ: <http://www.rwanda-npo.org/>
e-mail: info@rwanda-npo.org